

2 さまざまな生き物の共生

地球上の生き物は、
その役割によって、
3つのグループに
わけることができます。

1. 土や空気や光から
栄養をつくりだす生き物
2. 栄養を取り入れて
生きる生き物
3. 生き物の排せつ物や
死がいなどを分解して、
ゆたかな土を
つくりだす生き物

生き物の
排せつ物や
死がいなどを
分解して、ゆたかな土を
つくりだす
生き物

植物が育つためには、ゆたかな養分をもつ土が必要です。この土をつくっているのが、微生物や菌、ミミズやだんご虫のような虫たちです。これらの生き物は、かれ葉や生き物の死がい、ふんなどを食べて分解し、植物に必要な養分をつくりだします。ゆたかな土の中には、数えきれないほどの微生物や虫がすんでいます。

この3つのグループの生き物は、おたがいに必要とし、必要とされながら生きています。

このうちのどれか1つがなくなっても、残りの2つは生きていくことができません。このようなおたがいが助け合う関係を「共生」といいます。

自然の中では、すべての生き物が共生の関係にあり、すべてのものはぐるぐるめぐりながら循環の中で生きています。自然の中には「むだ」なものはないのです。



植物は、光合成をして栄養をつくりだす役割をもっています。まず、土の中から水や養分を、空気の中から二酸化炭素を取り入れます。そして、太陽の光をエネルギー源にして光合成を行います。すると、植物の内部に炭水化物やたんぱく質などができます。これらは、動物が生きていくためになくてはならない栄養となります。

土や空気や
光から栄養を
つくりだす
生き物



動物には、植物をえさにするものや、ほかの動物をえさにするものがあります。植物をえさにする虫や動物は、植物がつくりだした栄養を取り入れます。それを肉食の動物が食べて栄養にします。人間は、植物を食べ、牛やブタ、ニワトリや魚などを食べて生きています。また、動物は歩いたり飛んだりできるので、植物のタネを運んで植物がふえるのに役立っています。

栄養を
取り入れて
生きる生き物

